

「核抑止論」への克服が世界的課題に！

竹の台 島田 徹

原水爆禁止 2025 年世界大会は、国内外の平和運動の代表が集まり、核兵器廃絶への方針を論議する国際会議が 8 月 3～4 日に行われ（広島世界大会には 17 か国、200 名以上の海外団体、国連・政府代表が参加）、「国際会議宣言」がまとめられます。その内容はロシア・イスラエルの核兵器使用への言及、アメリカによるイランの核施設への攻撃などの情勢の下、「核抑止論の克服」「被爆者を先頭とする市民社会と諸国政府との共同」が柱でした。この「宣言」を受けて、4～6 日の広島大会、7～9 日の長崎大会となり、それぞれ、①「被爆体験の継承と未来」をテーマにした被爆・核実験被害の実相の普及 ②海外代表との運動交流 ③軍事施設の見学会 など様々な分科会がありました。最後の日は、全体集会で討論の報告です。以上が世界大会の概要です。私は、広島大会と長崎大会の両方に参加しましたが、長崎大会の内容は「つながり 9 月号」で報告していますので、ここでは、広島大会を中心に報告します。

8 月 4 日(月) 8:30 に JR 神戸駅からバス 2 台で広島へ出発。乗員は 70 名。孫 3 人連れた方も。大会会場の県立総合体育館に到着。兵庫参加者は現地集合など含めて 147 名。

14:00～16:30 「広島をつどい」では「被爆体験の継承と未来」がテーマ。被爆者の矢野さん（94 歳）、韓国原爆被爆者協会の朴さん（90 歳）、被爆者の本谷さん（96 歳）からの証言。まだ知られていない被爆のこととして、「黒い雨訴訟」「胎内被爆」などの証言。被爆者運動の継承としては、スペイン代表が日本被団協の田中重光さんたちの訪問を受け、「今後の運動に生かす」と報告。広島の高校生が取り組んでいる「原爆の絵」。全国平和ゼミナールの高校生の取り組みなどの報告。私にとって印象的だったのは、小学生が作詞し、音楽の先生が作曲した歌をその小学生と友だちと一緒に歌ったことでした。



8 月 5 日(火) 9:30～16:30 フォーラム、分科会があり、私は、フォーラム「海外代表との国際連帯と市民運動」に参加（250 名）。オーストリア、ドイツ、ベルギー、イギリス、エジプト、キューバ、アメリカ、日本の平和団体や国会議員が発言。また参加者からの質疑応答があった。

発言者からは /安全保障で問われるのは国家ではなく「人間の安全保障」だ /広島・長崎は過去の悲劇でなく未来への警告だ /NATO の軍事費 GDP 比 5%では社会が破壊される /核兵

器に巨額の予算が費やされ、軍事産業が潤っている /核不拡散条約は核兵器禁止条約への過渡的なもの /右翼勢力の台頭と核抑止力依存の世論が高まっている /アメリカの学生たちがガザ問題は人道的問題として反対の声を高めているが、核兵器についてはノータッチとの大学教師の発言 /世界中の草の根の運動の連帯を /SNS の問題も深刻で、インフルエンサーたちに我々の主張を拡散してもらうよう努力している /広島・長崎の核被害者の実相を拡げ、核兵器をなくさなければならない /各国政府・市民団体の国際連帯が必要、特に日本の平和運動が世界に大きな影響を与えるので頑張ってもらいたい 等々の発言があった。

8月6日(水)

8:00~9:00 広島市主催の平和記念式典に参加。一般参加者は、会場周辺でマイク放送を聞く(30年前は一般者も椅子に座れたが・・)。しかし、松井広島市長と石破首相の挨拶は核兵器廃絶と核抑止論のダブルスタンダード。しかし、湯崎広島県知事は、核抑止論の誤りと国に核兵器禁止条約への参加を訴えていた。子ども代表の挨拶も良かったが、総じて平和記念式典は被爆者の気持ちとはかけ離れた形式的な式典と感じた。

10:30~13:00 総合体育館の広島デー集会には2800人が参加。海外からの参加者は222人で、フランスから78人、韓国27人などが目を引いた。特にフランスは、2月に日本被団協と原水協による海外ツアーを通じて労働総同盟の協力があったとのこと。

国連・世界からの期待と連帯のメッセージ。核兵器禁止条約は希望の光、ノーベル平和賞を受賞した被爆者の声を国際社会に響かせるべき。被団協からは「核なき世界」に逆行する日本政府を批判。梶田隆章(元学術会議議長)さんは「科学者の責任」のメッセージ。その後、核保有国と核依存国での取り組みや草の根運動の報告。フィナーレは、外国代表団が舞台上がり、「We shall overcome!」の大合唱となり、大いに盛り上がった。



この広島世界大会に参加して、①諸外国の核兵器廃絶に対する情勢の一端を共有できたこと、②草の根運動の連帯が世界を動かしていること、③若者の参加・発言に励まされたこと等、今後の活動にとって、良い学習の場になった。

(大会終了後、兵庫代表団はバスで帰神。私は長崎大会に参加するため、小倉に帰省)